2021日本自動車殿堂 歴史遺産車

日本の自動車の歴史に優れた足跡を残した名車を選定し
日本自動車殿堂に登録して永く伝承します

Cars that blazed the trail in the history of Japanese automobiles are selected,
registered at the Hall of Fame and are to be widely conveyed to the next generation.

日産 Be-1

NISSAN Be-1

デザイン部門が主導し、「ノスタルジック・モダン」と呼ばれるデザインを編み出し「パイクカー」と呼ばれるジャンルを確立した。
パオ、フィガロといった第 2 弾、第 3 弾の少量限定生産車もユーザーから高く評価された。

日産 Be-1（1987年）主要諸元

全長	3635mm
全幅	1580mm
全高	1395mm
ホイールベース	2300mm
トレッド	1365/1350mm
車両重量	700kg
乗車定員	5人
タイヤサイズ	165/70HR12

型式	BK10型
エンジン型式	MA10S型
駆動方式	FF
エンジン	直列4気筒、OHC
ボア×ストローク	68.0×68.0mm
総排気量	987cc
最高出力	52ps/6000rpm（ネット）
最大トルク	7.6kg・m/3600rpm
変速機	3速A/T、フロア
価格	134万8千円

フロントの丸目ヘッドライトに対し、リアは直線基調のランプを片側に3つ重ねたデザインとした。

必要最小限のものだけで構成したシンプルなインパネ。

上質で肌触りのいいシートを生成りのシート表皮でくるんだ。

Be-１は、日本の自動車産業及び自動車市場が急成長・急拡大した1980年代、大量生産・大量消費と、最新技術の開発といち早い取り込みの競争が激化する中にあって、少量限定生産の「パイクカー」というジャンルを確立した。また開発にあたってはデザイン部門が主導し、レトロとモダンを融合させたデザインを編み出した。その過程においてはファッションなど異業種とのコラボレーションにより、従来のカーデザインにはない新たな発想を取り込み、内外装のデザインに新たな風を送り込んだ。ノスタルジック・モダンという発想に基づく少量生産車の開発は海外、特に欧州の自動車メーカーにも取り入れられた。

1980年代は高度経済成長を経て、「価値観の多様化」や「大衆から分衆へ」などと「個の時代」と言われるようになっていた。また、市場では「モノからコト」、「ハードからソフト」を消費する時代へと変化が見られた。そうした中で、それまでの「未来に向かって、いいモノを造れば即売れる」風潮から、「商品には意味があり、それに共感できれば対価(お金)を払う」とするニッチなものに価値を見出す消費志向も生まれていた。少数ユーザーが望むマーケットに絞り商品開発をすることは、それまでになかったが、そこに的を絞り、デザイン開発を行ったのがBe-１であった。

それまでの乗用車はスポーツカー、ファミリーカー、ラグジュアリーカーといったジャンル分けされ、それに基づきユーザーが選択していたが、Be-１の開発ではジャンルではなく、「味わい」、「風合い」、「質感」といったものを表現、それらを訴求するという新たな発想を試みた。こうしたキーワードはファッション系のデザインスタジオとコラボレートして生み出し、そのコンセプトに基づき、社内のデザイナーが「解釈」し、形にしていくというプロセスを採用した。カーデザイナー以外のクリエイターとコラボレートされたコンセプトと、社内デザイン部門の開発努力によって生み出されたクルマであったからこそ、新しいユーザーニーズが開拓できたと言えよう。

こうした過程を経て具現化されたBe-１は、丸型の大きなヘッドライト、傾きの緩いウインドウ、必要最小限のものだけ備えたインストルメントパネル、肌触りのいいシートなど、それまでのクルマにはない、どこか懐かしいスタイルなのにモダンに見えるという不思議なテイストを感じさせた。また女性を中心に「かわいい」という評価を受けることになり、購入希望者にも多くの女性が集まった。1985年(昭和60年)の第26回東京モーターショーにコンセプトカーとして展示されると、来場者の強い反響を得た。その段階では生産・販売計画はなかったが、２年後、限定販売１万台として、受注を開始した。申し込みは初日から殺到状態で、発売１カ月後、社長名による“Be-１ 完売御礼”の広告を出すことで終止符を打った。また限定車という建前を崩さず、増産などの対応は一切取らなかった。

Be-１はプロダクトデザインの世界にも大きな影響を与えた。カーデザインに「ヘリテージデザイン」「ノスタルジック・モダン」といった分野を確立し、パオ、フィガロといった第２弾、第３弾のパイクカーもユーザーから高く評価された。また世界的に見ても後にＢＭＷミニ、ＶＷニュービートル、クライスラーPTクルーザー等、ヘリテージデザインに基づく商品が市場に出されるようになった。

（日本自動車殿堂　研究・選考会議）